

## 吉田泉殿・自然学セミナー第9回のお知らせ お知らせ1号

### 「人間とは何か：ブータンで考える」

とき：2010年11月6日、土曜日、1300-1800、懇親会2000ころまで

ところ：京都大学吉田泉殿

「地球社会の調和ある共存に貢献する」、それが京都大学の掲げる理念です。「人間と自然」という二分法と訣別し、人間中心の世界観から脱して、人間を含めた「自然」をどのように理解するべきか。本セミナーは、「自然そのまると全体」を捉えるなかで、「人間とは何か」という人間の本性についての深い理解をめざしています。

吉田泉殿の「堀りごたつと畳」の部屋で、寝そべってくつろぎながら、自由に意見を交換する場です。部屋の広さの関係で定員は上限30名ほどです。あくまで気軽な談話の集いです。話題提供者に限らず、どなたでも、何でも、配布資料その他をご持参くださってけっこうです。それぞれの思いを自由闊達に述べてください。

今回は再度「ブータン」をテーマにしました。10月下旬に実施するブータン訪問の報告会です。「人間とは何か」をブータンという国を契機に考えます。ブータンは、大きさは九州程度で人口約70万人。チベット仏教を国教とする立憲王政の国です。南北に約250km程度ですが、インド平原の続きの標高100mから7541mの未踏峰ガンケルプンツムの頂きまで7000mを超える高低差があり、多様な生物の垂直分布をみることができます。また最近ではGNPにかわるGNH（国民総幸福）の理念の提唱でも知られています。ブータンに最初に入ったのは1958年の中尾佐助です。のちに彼の照葉樹林文化論に結実しました。その中尾以来、ブータンでは、1970年の桑原武夫・松尾稔の調査隊や、1985年の堀了平の率いた京大山岳部のマサコン峰登頂など、京都大学から連綿と学術調査隊がでています。しかし近年は、横のつながりが希薄で、縦糸となる歴史的経緯についても忘却されているきらいがあります。今回は、国の大小を超えてイコールパートナーとしての日本とブータン、それをつなぐ懸け橋としての京都大学を意識しました。そのためには、ブータンを知っている人も、知らない人も、ともに重要だと考えます。なお、今回も、終了後に懇親会を用意しています。ぜひ懇親会にも参加くださるようお願いいたします。



### 1、当日のスケジュールと話題提供者

とくにタイムテーブルは設けません。定刻に始めます。最初に短く自己紹介をします。話題提供5題です。途中に長い休憩と歓談の時間をはさみます。なお、原則として、出席者は必ず懇親会にご参加ください。

司会と解説：松沢哲郎（京大霊長類研究所）京都大学ブータン友好プログラムについて

話題提供1：松林公蔵（東南アジア研究センター）国民総幸福とフィールド医学の展望

話題提供2：宮本万里（北海道大学gCOE）ブータンの自然保護と村の暮らし②

話題提供3：小林繁男（京大ASAFAS）ブータンとリハビリテーション森林学

話題提供4：吉川左紀子（京大こころの未来研究センター）こころ学とブータン

話題提供5：中嶋智之（京大経済研）ブータンとマクロ経済学

### 2、討論参加者（呼びかけた方です、これから変わります）：

小林慎太郎（地球環境学堂）、坂口志文（再生医科学研）、開祐司（再生医科学研）、藤重悟（数理解析）、森本幸裕（農）、山越言（ASAFAS）、辻本雅史（教育）、杉本均（教育）、阿形清和（理）、尾形幸生（エネルギー理工学）、岡田憲夫（防災）、橋本学（防災）、堤大三（防災）、清水展（東南アジア研究センター）、竹田晋也（ASAFAS）、山極寿一（理）、伊谷原一（野生動物）、幸島司郎（野生動物）、村山美穂（野生動物）、中村美穂（府立大）、藤澤道子（CSU）、出水明（出水クリニック）、瀬戸嗣郎（岸和田市民病院）、平口愛子（シュプリングー東京）、猿山直美（岩波書店）、榊原雅晴（毎日新聞）、尾古俊博（京都新聞）、芦原千晶（中日新聞）、辻卓司（鴻池運輸）、月原敏博（福井大学）、河合明宣（放送大）、米本昌平（東大）、杉山茂（静岡大学）、奥谷三穂（京都府立大）小崎哲哉（RealTokyo）、梶田真章（法然院）、仲野徹（阪大）、吉田裕子（吉田屋料理店）。ほかに参与観察で陪席する学生等が数名います。仲野真由（日東電工）、植田想（総人4）、中澤伸子（理3）、栗原洋介（理3）、池田彩夏（文3）、濱口優（医1）、ペマツォモ（同社1年）、阪大生3人。

### 3、当日連絡先 松沢哲郎、携帯：080-2623-3705。吉田泉殿は当日の朝9時から開いています。